

Bell Forum

ベルフォーラム

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

連載 登録医のご紹介

小児科、周産期・新生児医療の挑戦

TOPICS

健診センター(人間ドック) ご紹介

第17回健康塾を開催しました

新機能のご紹介:総合相談センター、入退院支援センター

ハートコールを365日24時間体制で実施しています

2014
Winter
No.46

立山雄岳



小児科、周産期・新生児医療の挑戦

地域の中核病院として 子どもの未来を支えます

当院は堺市における小児の地域中核病院として、急性疾患および様々な小児慢性疾患の診療をおこなっています。また堺市では唯一の NICU 認可施設で、地域の周産期新生児医療を担っています。当院は堺市小児救急医療システム二次後送病院および大阪府 NMCS 参加施設で、地域周産期母子医療センターでもあります。

また、当院は 1990 年初頭から母乳栄養および母乳育児の支援を始め、長年の母乳推進の功績が認められ 2013 年に「赤ちゃんにやさしい病院 (Baby friendly hospital : BFH)」としてユニセフから認定を受けました。

新病院では小児科病床が 18 床 (内個室 9 床) に増床となり、感染症の入院により対応しやすくなりました。新生児病床も 24 床 (内 NICU 認可病床 12 床) に増床し、産科の MFICU 開設と並行してさらなる周産期・新生児医療の機能強化と充実をはかります。

小児科外来

小児科外来は午前中に急性期疾患を中心とした一般診療をおこない、午後には予約専門外来としてアレルギー、小児神経、代謝・内分泌、栄養消化器、新生児フォローアップ、ワクチン外来をそれぞれの担当医が診療しています。アレルギー外来には多数の患者さんが通院しており、食事アレルギーのチャレンジテストも外来でおこなっています。

平日は毎日 20 時まで、土曜日は 17 時まで救急患者および地域の開業医の先生からの紹介患者を受け入れています。2013 年の小児科診療実績として一般小児科入院数は 771 名で、急性期感染症疾患のみならず幅広い慢性疾患も多数入院しています。

新病院の小児科外来は広いスペースとなり、子どもが喜ぶように動物が壁に描かれました。待合中央には電車をかたどったソファが置いてあり、来院した子どもが楽しんで座っています。

外来診察室は 5 室に増えて、その内 2 室は感染症患者の隔離専用の診察室にあてています。点滴室や処置室が増えて小児救急患者の対応がしやすく、また点滴後に安静に横たわれるベッドスペースもできました。小児外来のプレイルームでは保育士と一緒に子どもが広々と遊べ、受診した患者さんや家族がゆったりと落ち着いて、また安心して過ごせる外来となりました。

平成 25 年度診療実績 (小児科) D P C 分類	上位疾患	
1	肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎	159
2	喘息	117
3	ウイルス性腸炎	48
4	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	32
5	熱性けいれん	28
6	上気道炎	27
7	川崎病	26
8	腎臓、または尿路の感染症	24
9	脳性麻痺	13
10	その他の感染症 (真菌を除く)	13
11	てんかん	12
12	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	11
13	脳脊髄の感染を伴う炎症	9
14	リンパ節、リンパ管の疾患	8
15	動脈管開存症	8
16	急性膿皮症	6
17	細菌性腸炎	5

外来診療の様子



小児病棟

小児病棟では個室が増えて感染症の入院により対応しやすくなりました。動物の絵が各病室に描かれ、プレイルームは学校の教室ほどの広いスペースがあり、入院生活をより快適に過ごせる病棟になりました。出張で院内学級にも対応していただいております、長期入院中の児童も勉強しています。また3名の保育士が病状に合わせて小児病棟と外来で保育をしています。

総室では子どもを観察しやすいようにナースのサブステーションを中央に配置しました。総合病院の中に子ども病院が存在するといってもいい環境になりました。

また、当科には在宅で人工呼吸器管理治療を施行しているような重度心身障害児が複数名通院しています。家族の自宅での負担軽減と患児の病状評価を兼ねたレスパイト入院を昨年より実施しており、今後はより充実して入院の対応をしていく方針です。

レントゲンを模したおもちゃもあります



プレイルーム



小児医療

また2013年から小児神経疾患の精査治療にも力を入れており、発作時ビデオ脳波測定を導入して小児てんかんの精査をおこなっています。新病院ではさらに脳磁図が新設され、脳機能の評価およびてんかん発作の焦点をより検出できるようになりました。

また小児の発達障害の患者さんが多く、その診断と支援を地域と連携しておこなっています。

小児神経疾患にはてんかん、発達障害、自閉症、脳性麻痺、筋ジストロフィー、先天奇形症候群、先天性代謝異常症、その他にも神経変性疾患や神経筋疾患といった数多くの対象疾患があり、診断や治療が難しい分野です。近年は神経変性疾患の遺伝子診断が数多く可能になったこと、筋ジストロフィーに対する遺伝子治療、先天性代謝疾患に対する酵素補充療法、新しい抗てんかん薬による治療薬の増加などがあり、医学の進歩を実感します。重度心身障害児の在宅医療への取り組みも徐々に進み、一昔前とは随分と医療は様変わりしました。ただ現時点では完治する小児神経疾患は決して多くなく、患児と家族に寄り添ってQOLが向上するようなcareを中心とした医療が重要です。社会および時代に応じて求められる医療の質は変化しますので、それに今後も柔軟に対応できるように常日頃からの心構えと準備が大切と思っています。

安定した質の高いチーム医療を継続しておこなえる診療体制を整えて、当院は地域の小児および周産期・新生児医療をより担う所存ですので今後ともよろしくお願ひします。

半個室のNICU

NICUは24時間365日の新生児当直体制で、26週以降の出産を受け入れています。新生児室はそれぞれの赤ちゃんごとに保育器のスペースが壁で独立して確保され、母乳や育児指導がプライベートにより配慮してできる環境となりました。

2013年の新生児入院は147名で、新生児搬送は33名、母体搬送は41名で人工換気症例は45名でした。母乳育児を推進し、Baby friendly hospitalとして退院後も助産師とともに発育と発達のフォローアップと育児支援を積極的にしています。



NICU

略歴

- 平成 4年 大阪大学小児科 医員
- 平成 5年 大阪警察病院小児科 医員
- 平成 8年 市立柏原病院小児科 医員
- 平成 9年 大阪大学医学部小児科 医員
- 平成 15年 大阪大学医学部小児科 助教
- 平成 24年 大阪大学医学部小児科 講師
- 平成 25年 ベルランド総合病院小児科 部長

資格等

- 医学博士学位（大阪大学）、
- 日本小児科学会専門医・指導医、
- 日本小児神経学会専門医・指導医
- 日本てんかん学会専門医・指導医・評議員

小児科 部長

おきなが たけし
沖永剛志



新病院2階、静かで落ち着いた環境づくりをテーマに誕生しました

健診センター（人間ドック）

ホスピタリティあふれる空間

南向きの大きな窓がある健診センター。その専用待合室は自然採光にこだわり、明るい光の差し込む見晴らしのいい空間となっています。ゆったりと座れるソファやカーペットなど、ゆったりとリラックスしていただける雰囲気での検査までの時間をお過ごしいただけます。

健診着も一新し、より楽に検査をうけていただけるスタイルに変わりました。

レディースフロアへは健診センターからの専用通路を設けており、女性の方のプライバシーにも配慮しています。生理検査、内視鏡センターも同フロアで動線がよく、スムーズな受診が可能です。



最上位機種種のCT（コンピュータ断層撮影）



MRI（磁気共鳴装置）



レディースクリニックへの専用通路

総合病院だからこそできる精度の高い検査

新病院では療養環境だけではなく、医療機器の充実も図りました。放射線診断では最先端のCT3台、MRI3台を配置し、今までより高精度で低侵襲な（体への負担が軽い）機器を導入しました。骨粗鬆症の機械はMD法からDEXA法に変更し、MD法では難しかった骨密度の減少が早期に発見出来るようになり、腰椎・大腿骨の二箇所の測定を行うため、より精度の高い測定が出来るようになりました。

これらの機械を使用するオプション検査は、肺がんの診断に欠かせない胸部CTや、脳血管障害の発見を目的とする頭部CT、MRI、骨の密度を測定する骨塩定量などがあります。

また、基本検査に含まれる胸部レントゲンで使用する一般撮影装置も、新たに検出器と画像処理装置を導入することにより、大幅な被ばくの低減が図れるようになりました。

検査の際の体への負担や苦痛が減少し、経験豊かなスタッフによる迅速で精度の高い検査を受けていただくことが可能です。



健診着



検査終了後は日本料亭「なだ万」のお弁当をお召し上がりいただけます。

総合病院だからできるアフターフォローと 安心の医療連携



目指すは無病

従来の健診では生活習慣病の早期発見や予防に重点が置かれていましたが、これからはそれだけではなく生活の質（クオリティー・オブ・ライフ）をどれだけ高め、豊かな生活を行えるかも重要になってきています。自分自身の身体についてもっと積極的にチェックしていただくために健診センターを活用していただきたいと思います。

旧病院の健診センターでは、一日の予約人数には制限があるため、予約日が希望に添えなかったり、年度末などの繁忙期にはご予約が取りにくかったりすることもありましたが、新病院では健診センターの予約枠を1日30名に増やし、保健指導の充実も図っていく予定です。

症状が出始めてからではなく、普段から自身の健康状態を確認しておくことで、病気の発症予防となり、「メタボリックシンドローム」や「生活習慣病」になる前の「予備軍」の段

階で発見出来れば進行を防ぐことも可能です。健康管理は自分のためだけでなく、家族のために大切なことです。早期発見・早期治療、そしていつまでも健康で暮らすためにも、年に1度は健診をお勧めします。



検査についてわからないことなど、お気軽にご質問ください

(文：健診センター 主任 室美和子)

オプション検査

- **腫瘍マーカー男性セット**
(CEA・CA19-9・SCC・AFP・PSA) 【10,800円】
- **腫瘍マーカー女性セット**
(CEA・CA19-9・SCC・AFP・CA125) 【10,800円】
腫瘍マーカーは主として腫瘍細胞によって作り出される血液中の種々の腫瘍マーカーを測定する検査です。もし、異常が出ても、この検査だけの癌の有無を確定できません。さらに精密検査が必要となります。
- **腫瘍マーカー PSA 単独** 【2,700円】
前立腺癌のマーカーです。
- **乳癌検診 (マンモグラフィ・視触診)** 【3,240円】
乳房を機械で圧迫してX線写真を撮る検査と、医師による触診の組み合わせによって、乳癌の早期発見の出来る検査です。40歳以上の方には2年に1回の検査をお勧めします。
- **子宮癌検診 (内診・子宮卵巣エコー・頸部細胞診)** 【3,240円】
産婦人科医による超音波と内診で子宮や卵巣を調べる検査と、子宮の入口の細胞を一部採り、癌細胞の有無を調べる検査です。

- **動脈硬化検査 (リポ蛋白 a 精密測定)** 【2,700円】
血液検査で生活習慣病の一つである心筋梗塞や脳卒中になりやすい体質を持っているかを調べます。
- **骨粗鬆症検査 (MD法)** 【2,160円】
手のX線写真により、骨の厚さと密度で骨粗鬆症を調べます。特に閉経後の女性に多いといわれています。
- **直腸指診・肛門鏡** 【2,160円】
指触診と直接肛門鏡で直腸を見る検査です。痔の発見と直腸癌発見の手がかりとなります。
- **甲状腺検査 (freeT3・freeT4・TSH)** 【7,560円】
甲状腺の働きを調べます。女性の方に異常が多く、疲れやすい・急に太った・急にやせた・脈が速くなるなどの症状があるとき、その原因として甲状腺機能に異常がある場合があります。
- **ピロリ菌抗体検査** 【3,240円】

以下の項目については受診予定日の7日前までに予約が必要となります

- ※検査を受けることが出来ない場合がありますので、予約時にペースメーカー・体金属・刺青の有無をお知らせください。
- **頭部 CT** 【12,960円】
この検査は、脳腫瘍・頭蓋内の診断全般に広く用いられる検査です。この検査では、脳動脈瘤の診断はできません。
 - **頭部 MRI** 【21,600円】
この検査は、コンピューターと磁気・電波を使って断層写真を撮る検査です。質の高い画像が得られるため、CTでは発見できない病変も発見できます。脳梗塞の早期診断・脳腫瘍の検出に有利な検査です。この検査では動脈瘤の診断はできません。
 - **胸部ヘリカル CT** 【14,040円】
ヘリカル CT は人体を輪切りにした画像によって、通常の単純撮影では検出されにくい、心臓の裏面や大血管・縦隔病変についても診断が可能です。
 - **肺検診 (胸部ヘリカル CT+喀痰細胞診+腫瘍マーカー)** 【21,600円】
この検査は、胸部ヘリカル CT に喀痰細胞診・腫瘍マーカー (シラフ・ProGRP・CEA) を加え、より詳しく肺癌を発見できる検査です。

以下の項目については受診予定日の10日前までに予約が必要となります

- **脳検診 (頭部 MRI+MRA+頸部 MRA+脳外科医による結果説明)** 【38,880円】

■ 平日 月～金曜の完全予約制となっています

■ お問合わせ・お申し込み受付時間

平日 月～金 ☉ 9:00～12:00
☉13:00～16:00

072-234-2012 (直通)

※お子様連れのご受診はご遠慮ください。

ご予約



登録医のご紹介

中井医院

なかい のりひろ
院長 中井 紀博先生

消化器科・外科



星座：ふたご座

趣味：野球
(観るのもするの)

血液型：A型

住所：堺市中区深阪5丁2番55 TEL：072-235-3317

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○		○	○		
18:00～20:00	○	○	○		○			

※ 休診日：木曜、土曜の午後、日曜、祝日

Q. 医師を目指したきっかけは？

A. 診療所で仕事をする父の姿をみて。

Q. 診察の際に心がけている事は？

A. 患者さんがどんなことで困っているのか、よく聞くこと。

Q. 地域医療について

A. 患者さんが病院と診療所でそれぞれ適切な治療、通院ができる良い連携に少しでも役立つことができればと考えています。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

A. この度の新病院完成おめでとうございます。益々の地域の中核病院としての診療を期待しています。

Q. 最後に一言お願いいたします。

A. ベルランド総合病院には、いつも大変お世話になっています。今後ともよろしく願い申し上げます。

医療従事者向け セミナー

第18回 ベルランド地域医療懇話会

日時：平成26年11月15日(土) 16:00～17:30
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール

1. 当院診療科のご紹介

- ①「救急医療は地域医療連携とチーム医療の原点」
急病救急部 坂田 育弘
- ②「心臓血管外科の取り組み～腹部大動脈瘤のステントグラフ治療」
心臓血管外科 南村 弘佳
- ③「高精度放射線治療への取り組み」
放射線治療科 則久 佳毅
- ④「ベルランド総合病院の外科医の使命」
外科 川崎 誠康
- ⑤「肝胆膵外科の紹介」
肝胆膵外科 小川 雅生

2. 新病院について

ベルランド総合病院 院長 亀山雅男

新規登録医

美原区	クローバー在宅クリニック なかむら むねひろ 中村 宗浩
堺区	さい小児科 さい のぶあき 崔 信明
大阪市	小出内科神経科 こいで やすみち 小出 泰道

登録医件数 H26.10.1 現在 362件





たまがき歯科クリニック
院長 玉垣 剛志 先生



10月9日(木)14:30~15:00に第17回の健康塾を開催しました。

今回から新病院 AIF ホールでの開催となり、講師は初めての外部講師、たまがき歯科クリニック 院長 玉垣 剛志先生にお願いしました。事前のアンケート調査で要望が多かった口腔ケアについて、『健康の第一歩は口からでしょ！』のタイトルで講演していただきました。

今後、超高齢化社会が更に進む日本では、在宅で介護をすることが増えてきます。死因統計で肺炎が増加しており、その多くが高齢者の誤嚥性肺炎です。講演の前半では、誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアがいかに重要であるかを話されました。玉垣先生が日常診療のなかで集められたリアルな画像が提示され、参加者の中から『うわー』などの悲鳴に似た声もあがり、後半の口腔ケアの方法では、真剣な眼差しで前かがみになって聴講している参加者の姿が印象的でした。

参加者56名のアンケートでは、『楽しい講演でありました。次回はいつですか？』や、初めて参加された方が『もう17回もしているのですか。もっと早く知っていたら毎回参加していたのに。次回はどのようにすれば知ることが出来ますか』など、好意のご意見を多数いただきました。

旧病院では講演会場が狭く、入場制限などでご迷惑をおかけしていましたが、AIF ホールは参加者数300人まで柔軟に対応できます。楽しく分かりやすい健康塾を継続して開催しますので、ご近所の方、お友達などお誘い合わせの上、御来院ください。

また12月13日に南海高野線北野田駅前 東文化会館3階 フラットホールにて『救急』をテーマに市民公開講座を行います。チラシ、ホームページなどでお知らせいたします。皆様のご来場をお待ちしています。

ベルランド総合病院 第5回 市民公開講座

参加無料

日時：平成26年12月13日(土)
14:00~16:00(開場:13:30)
場所：東文化会館(南海高野線 北野田駅直結)

体験コーナー

- ・AED
- ・心肺蘇生法

測定コーナー

- ・血管年齢
- ・骨密度
- ・酸素濃度

救急救命士、看護師が
指導・チェックします！

『臨死体験』

～心肺停止からよみがえった人が見たもの～

急病救急部 顧問 坂田 育弘

臨死体験は意識喪失中に体験したことを意識が清明に戻った時に報告される内容です。意識喪失の中で最も重篤な心臓と呼吸が停止した状態から心肺蘇生により社会復帰した人たちの臨死体験から生きていることの喜びや命の大切さを学びます。

三途の川はあるの？閻魔さまは本当にいるの？臨死体験談が社会生活の心の糧になり、終末期状態の人に光を投げかけ、命を大切にす道標になる事を期待しています。高齢化社会を迎え安楽死・尊厳死などの対応やガン告知や高度医療などに対する不安を和らげる事ができればと思います。



新機能のご紹介

総合相談センター



これまで「地域医療連携室」「医療福祉相談室」「患者様相談室」は個別の部署として運営していましたが、新病院に移転後は総合相談センターとして一か所にまとめられました。

「地域医療連携室」「医療福祉相談室」「患者様相談室」は、かかりつけ医相談、医療費相談、転院先相談、治療内容や病院への苦情や要望など、あらゆる相談やご意見にワンストップで対応するため、案内表示では「総合相談センター」と表記されています。来訪者が長時間待たされたり複数の部署を廻ったりすることなく、相談内容によって適切な職員が迅速に、時には複数の職員が連携して対応することが目的です。

患者さんにとって効率がよく、満足のいく対応をいたします。



患者相談・地域連携部
副部長 村上佳代



半個室・個室の相談室



入退院支援センター
看護部
副部長 槇山久美

入退院支援センター



入退院支援センターでは、入院決定時に患者さまと面談し、入院療養に関わる様々な課題を早期に発見し、対応することで、スムーズな入退院ができるように支援します。

主に入院説明業務・退院支援業務・空床管理の3つの業務を行っています。

- 1 入院説明業務：入院手続き・データベース聴取・入院治療概要・費用等の説明及び転倒転落アセスメント
入院説明業務を入退院支援センターで行うことにより、外来・病棟業務の効率化が図られ、ゆっくり傾聴できる環境で患者満足度も向上しています。
- 2 退院支援業務：退院調整看護師と医療ソーシャルワーカーが協働
- 3 空床管理：緊急入院の病床振分け、病棟間の入院調整

人員構成は看護師9名（非常勤含む）事務員3名で運営しています。

新病院では、地域連携室・医療福祉相談室・患者様相談室が共同オフィスとなったことで、これまで以上に他職種・他部門間の連携が取りやすくなり、患者さまへの対応がスムーズに出来るようになっています。



50 歳代男性、20 分前からの突然の急激な胸痛というハートコールを救急隊から循環器内科医が受け、7 分後に当院到着。心電図では ST 上昇はみられないものの、心エコーにて大動脈弁閉鎖不全を認め、造影 CT 検査にて上行大動脈から、腹部大動脈にかけての急性大動脈解離と診断。心臓血管外科医に連絡をとり、20 分後に手術を開始。術後は順調に回復され無事社会復帰された。

この方のように、緊急で生命のリスクのある急性大動脈解離、急性心筋梗塞、致命的不整脈、心不全に対して、当院ではハートコールを実施しています。



急病救急センター



カテーテル室



堺市並びに南大阪の救急隊、近隣の病院、医院の先生方と連携し、緊急を要する循環器疾患が疑われると、ハートコールで当院循環器内科医が直接病状をお聞きし、救急外来で対応しています。2014 年 4 月から 12 名の循環器内科医と 4 名の心臓血管外科医が 24 時間体制で待機しており、9 月からの新病院開院後は、救急外来スペースが拡大され、救急外来と隣接した 3 つのカテーテル室と CT 室が稼働しています。急性心筋梗塞患者さんが受診されると、ナースを含むコメディカルの緊密なチームワークで短時間でのカテーテル室入室が可能となっています。カテーテルインターベンション専任ナース (INE) も 6 名在籍しているカテーテル室では、冠動脈造影を行い、血栓吸引、バルーン拡張、ステント留置などの治療に加え、血栓除去に有効なエキシマレーザーを用いた先進的治療も可能です。



循環器内科・心臓血管外科

2014 年 1 月から 9 月までに、ハートコールからの患者さんを 68 名受け入れており、うち急性心筋梗塞・狭心症 34 名、致命的不整脈 7 名、心不全 4 名、急性大動脈解離・大動脈瘤 4 名の治療を行いました。いずれの疾患も発症から数分以内に容態が悪化し急死される可能性もあるため、今後も当院では 1 秒でも早い病院への受け入れと、エコー、CT 等の迅速な検査、更にカテーテル検査・治療、外科的手術などの治療を適切に行い、安全で良質な医療の提供を行えるようスタッフ一同精進し、一人でも多くの方の循環器緊急疾患患者の救命に邁進し、地域の救急医療に貢献いたします。



ICU

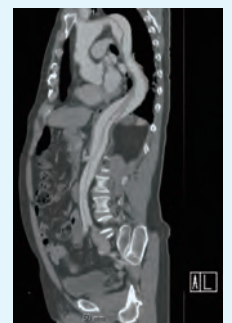
急性心筋梗塞 (右冠動脈)



治療前

治療後

急性大動脈解離



Excellent License

新生児集中ケア認定看護師

専門的な知識と技術
あかちゃんご家族にとって
最善のケアを目指して

新生児病棟
三木 麻由美

私は看護学生の頃、小児看護の授業で1枚のスライドを見ました。その写真には、NICUの保育器の中で眠っている小さな赤ちゃんの姿が映っており、力強い生命力を感じたことを今でも鮮明に覚えています。その写真が忘れられず、自分もこのような赤ちゃんのそばに寄り添い看護を行ないたいと思う、NICUへの配属を希望しました。

入職後、看護師のケアを行なう手によって赤ちゃんの全身状態が良くも悪くも大きく変化するという新生児看護の奥深さを目の当たりにし、実践を重ね、新生児の声なき声を読み取ることができるようになりたいと思い、看護してきました。その中で、新生児看護に対してもっと学びを深め、きめ細やかなケアを提供したいという想いが強くなり、新生児集中ケア認定看護師を志しました。

新生児集中ケア認定看護師は、「急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養過程に生じる身体的及び心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的なケアを実践する」ことを期待されています。認定看護師教育課程での学びは多く、NICUに入院となる赤ちゃん達にとって「最善のケアとは何か」を考え続けることを学び、かけがえのない充実した時間を過ごすことができました。今後は、表情や行動から赤ちゃんの声を読み取り、良き代弁者となるように研鑽を積みみたいと考えています。また、24時間を通したベッドサイドケアだからこそ見えてくる新生児看護の魅力を、病棟スタッフにも伝えていきたいです。

新病院移転に伴いNICUに入院する赤ちゃんご家族にとって、より良い療養環境を提供するために半個室のフロアとなりました。これは、集中治療を要する急性期にあっても、赤ちゃんご家族が時間を共有できるプライベート空間を確保しようとするものです。これからも、当院が大切にしてきたファミリーセンタードケアがさらに発展できるように努めていきたいと考えています。

